

海外安全対策情報
(平成30年度第3四半期)

在エチオピア日本国大使館

1. 社会・治安情勢

第3四半期(平成30年10月～12月)の情勢は以下のとおり。

- (1) 10月、人民代表議会において行政機関再編に係る法令案が採択され閣僚人数が28名から20名に削減された(うち女性閣僚10名)他、同24日、当国初の女性大統領として、サヘレウォルク・ゼウデ氏を任命した。
- (2) ベニシャングル・グムズ州とオロミア州の州境地域及びその周辺地域では、反政府組織であるオロモ解放戦線(OLF)の武力行為が頻繁に発生し、12月、OLFの武力行為に対するエチオピア軍の軍事行動が報じられた。
- (3) オロミア州とソマリ州、ティグライ州とアムハラ州及びベニシャングル・グムズ州とアムハラ州等の州境沿いでは、継続的に民族間衝突が発生している。
- (4) ガンベラ州内では、民族間衝突や難民キャンプ内での衝突の他、南スーダンからの武装民族の移動が報じられた。
- (5) イスラム過激派組織、アル・シャバーブは引き続き当地を攻撃対象としており、依然としてテロリストの侵入やテロ発生の可能性がある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

当地においては、外国人を狙った強盗や窃盗事件が発生しており、第3四半期においても類似する被害が報告された。主な手口は次のとおり。

(1) 強盗事件

アディスアベバ市内において、強盗事件が発生している。早朝及び夜間に徒歩で移動している際に、背後から首を絞められ、抵抗できない状態に追いやられ、携帯電話や財布を強奪する手口が認められる。

(2) 窃盗事件

アディスアベバ市内において、スリが増加している。犯行手口の一例としては、複数名が歩行者に近づき、雑誌等を売る素振りや、服に唾や液体をかける、腕をつかむ等して一人が気を引いている間に、他の者が歩行者のポケットから携帯電話機や財布を盗む手口が認められる。犯人は一見して少年風

など、若年層が多いと報告されている。

ミニバス(乗り合いタクシー)乗車中も、隣の乗客が液体を浴びせる等し、気を引いている内に携行物を盗んだ上で、社内清掃を装い被害者のみ降車させ、ミニバスごと逃走する事案が認められる。

(3) ぼったくり事件

アディスアベバ市内において、ぼったくり被害が発生している。旅行者が滞在ホテル周辺を徒歩で移動していると、エチオピア人が「自分はこのホテルの関係者だが、いい飲食店を教えようか。」と近づき、「ホテルの関係者」と言われて安心し、勧められた飲食店に入って注文すると、高額の支払いを請求される手口が認められる。

(4) 当たり屋事件

車両走行中に牛・羊などの群れに遭遇し徐行した際、飼い主が急に車両前方に近づいて来て、車両に接触した素振りを見せ横転する。その後、警察へ届け出ない代わりに金銭を要求する手口が認められる。その際、車外に出て対応に当たっているドライバーへ周囲の取り巻きが暴行を加えるケースもある。

3. 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 殺人

邦人被害の届け出はない。

(2) 強盗等

邦人被害の届け出はない。

邦人から凶悪犯罪被害の届出はないものの、依然としてスリや盗難被害については多数の届出を受けている。前段2(1)～(4)の手口を十分認識し、車両走行中の周囲の状況、また、旅券、スマートフォンや財布の携行管理には十分な注意が必要である。

4. テロ・爆弾事件発生状況

12月19日、ベニシャンゲル・グムズ州南部において、地雷のような爆発物によりミニバスが爆破され多数の死傷者が発生。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の届出はない。

6. 自然災害発生の事例

国内において大きな災害は発生していない。

7. 対日感情

対日感情に係る問題は認知していない。

8. 日本企業の安全に係わる諸問題

11月中旬、オロミア州ビショフツ（デブラ・ゼイト）において発生した中国企業と地元住民の衝突に起因して、偶然現地を通りかかったアジア人女性らが地元住民により激しい暴行を受ける事件が発生した。被害者は自力で逃走したが、事件当時、被害者が自身は中国人ではないと主張したが聞き入れられなかった模様。

現在、日本人を標的としたテロ行為や襲撃事案は確認されていないが、国内の不特定地域において突発的に衝突や襲撃事案が発生しており、場合によっては日本人も、アジア人を一括りとして認識され謂れもない報復行為を受ける可能性があるため、十分な注意が必要である。